

ミラクルスターのつくりかた

Type-D, Bridal Exit from Wife Ver.

1. 大前提として

大前提として

既婚者で、結婚してできること（子づくり、子育て、仕事、自宅）の（ほぼ）全てを達成し、結婚生活の目標を見失ってしまった女性であること

が必要です。なお、「ただ離婚するよりはマシ」な代案を示すことが趣旨であり、決してこのやり方を奨励するものではありません。

ご自身の責任で実行してください。このやり方を実行することによって関係性がこじれて仕事を失ったり、慰謝料、養育費を請求されるような事態になったとしても、一切責任を取ることができません。

あなたの人生に責任を持って寄り添う指導者を見つけてください。

2. 心の拠り所となる土地を決める

今住んでいる土地から無理に移動する必要はありませんが

今の家族に代わって
心の拠り所となる土地を決めます

(可能性の話ですが)男性だったら結婚の約束を反故にする
勇気さえあれば、パートナーの数を増やしていくことによって
結婚相手の枠にとらわれない人生を開拓していくことが可能
ですが、女性の場合はそういうわけにはいきません(これは
肉体の運動能力の格差に由来する制約です)。ただし、
社会に多大な迷惑を及ぼすので、結婚の約束をした人が
無理矢理その約束を反故にすることはお止めください。

「離婚」という手続きを踏むことがまず第一です。



写真はイメージです

3. 仕事を考える

現在の仕事がある人は無理して
辞める必要はありません

ただし、活動を進めるうちに不倫を疑われたり、作り話の噂を押しつけられたりして、辞めざるを得なくなる可能性があります。そのときのために、辞めた後の仕事について考えておきましょう。

難しく考える必要はありません。

そのときに備えて心の準備をしておく
程度で充分です。

4. 仕事を考える(続き)

◆ 複数の仕事を掛け持ちする

- ◆ 最初のうちはひとつの仕事を覚えるのに精いっぱいかもしれませんが、できれば数を増やして複数の仕事を掛け持ちすることをお勧めします。これによって仕事先から無理難題を押し付けられることを防げるようになります。

◆ 責任を負わなければならない仕事は避ける

- ◆ 営業職や各種正社員など目標に対する責任を負わなければならない仕事は避けます。ひとつの時間帯に入る同僚の数が複数いて責任負担割合が低い職場を選びます。お勧めはコンビニエンスストア・食品スーパーなどです。

◆ 異性からの誘いにはのらない

- ◆ 仕事先で出会う異性からの誘いにはのってはいけません。
「誘いにする」とは「食事に行く」を含め「一対一で会う」こと全般です。
「仕事先の休み時間にたまたま食事が一緒だった」程度は可能ですけど、
「仕事先の休み時間に誘われて一緒に食事に行く」はダメです。

5. あなたがついていく相手六人と出会う

心の拠り所となる土地で

あなたがついていく相手六人と出会います。

あなたがついていく相手六人は、心の拠り所となる土地で Type-D, Short Ver. の内容をクリアし、Type-D, Long Ver. に取り組む男性の中から選ぶのが王道です。

ただし、相手があなたのことを特別なパートナーと認めるとは限らないので、適切な距離を保ちながら交流を深めていってください。ある程度親密になったら異業種交流会の協力者となることを申し出ても良いでしょう。この場合もあくまで相手の意思を尊重します。

□ 婚姻届禁止 □

「あなたがついていく相手六人」の枠組みで出会った相手と婚姻届を書いてはいけません。「旧来の結婚」という関係性に移行することは不可能です。現在の結婚相手との離婚届を書いて提出するところから始めないといけないのでやる人はいないとは思いますが、時間をおいて必ずシステム全体の破綻をもたらします。一人以上の死者が出るでしょう。

□ 子づくり原則禁止 □

「あなたがついていく相手六人」の枠組みで出会った相手と子づくりを原則してはいけません。現在の結婚相手が完全に関知していない領域であなたが独自に築いた十分な経済基盤があって一人の力で責任を持って育てることが出来る場合のみ、子づくりしてもいいでしょう。慰謝料や養育費を請求してはいけません。

6. 七人目のパートナーとは

あなたにとっての七人目のパートナーとは、
あなたが遠い過去に婚姻届を書いた相手
のことです。